

2015年 早稲田大学 文学部 英語解答例

I (A) 1-d 2-c 3-b 4-b 5-b 6-a 7-a
(B) 8-c 9-d 10-b 11-c 12-a 13-b 14-a

II (A) 15-a 16-b
(B) 17-a 18-b 19-a
(C) 20-a 21-d 22-a 23-c 24-a

III 25-f 26-e 27-b 28-g 29-a 30-c 31-h

IV 32-c 33-f 34-g 35-e 36-m 37-i 38-a

V While libraries have been of great use from ancient times, we witnessed the problem of space-lacking and that of paper-wearing, which seem to be overcome by using the microfilm method, but this material itself was found to be vulnerable.

※ コメント 出題形式・難易度とも例年、大きな変化は見られない。ただし、会話問題では、up to date な新しい表現が出題されているので、要注意である。

2015年 早稲田大学 文学部 国語解答例

(一)

[出典]

前田英樹『民俗と民藝』「第六章 暮らしの器 二 眼が作り出す価値」の全文。(ただし、数カ所の文や語句の省略がある。)

[解答]

問一 ニ 問二 ハ 問三 ハ 問四 ハ 問五 イ
問六 物が在ること 問七 ロ 問八 A 巖然 B 鑑賞 C 崇拜

(二)

[出典]

三浦佑之『村落伝承論 『遠野物語』から』「序章 村落共同体の伝承」(ただし、最後の部分省略。また、途中にも文や語句の省略がある。)

[解答]

問九 ハ (全体は「イーニ一ハ一ロ」の順) 問十 ニ
問十一 I イ II ロ III ハ 問十二 ニ 問十三 ロ 問十四 始原の昔
問十五 イ・ハ

(三)

[出典]

甲：『実家卿集』 乙：『俊頼髓脳』

[解答]

問十六 ハ 問十七 ロ 問十八 ハ 問十九 ホ

問二十 はなとたづねてみばや 問二十一 ハ 問二十二 E ニ F ロ

問二十三 イ

(四)

[出典]

欧陽脩「相州昼錦堂記」

[解答]

問二十四 ホ 問二十五 ニ 問二十六 ヘ 問二十七 ホ

[講評]

(一) (二) が現代文の評論、(三) が古文、(四) が漢文という形式は昨年度と同じ。

(一) は「民藝」という受験生にはあまりなじみのないことが話題になっているため、とまどった人もいたかもしれないが、早稲田の入試問題としては、文章、設問ともに標準レベルの問題であろう。陶磁器に関わるなじみのない語句に惑わされなければ、作者の主張自体をつかむのはそれほど難しくはないはずである。設問としては、問四がやや難しい。答えの候補は複数考えられるが、「最も適当なもの」という設問の指示に従って、「ハ」を答えとする。

(二) は、文章、設問ともに標準レベルの問題。問九は、早稲田頻出の「文の並べ替え問題」だが、選択肢の文頭の接続語や指示語、さらに「都市」と「村」どちらについて述べている文かを把握すれば容易に解けるはず。

(三) の出典のうち、乙の「俊頼髓脳」は時折出題されるが、甲の「実家卿集」は、入試ではほとんど出題されたことがない作品のため、難しく感じた受験生がいたかもしれない。しかし、設問自体は、問十七、問十八、問十九、問二十など、受験生に求められる標準的な知識があれば、それだけで解ける問題が多かった。問二十は設問自体が大きなヒントになっているので、設問をきちんと読んだかが、正答の大きな決め手となるだろう。

(四) の漢文は、衛国公の徳の高さを賞賛する文章であることを把握するのは、それほど難しくないだろうが、細部の意味がとりにくい文章である。そのため、問二十五、問二十七が、紛らわしい選択肢があることも手伝って、答えが絞りにくい問題になっている。